

各駅の神戸歴史ウォーク(10)



新長田駅

田辺眞人

長田を初めて駅の名に使ったのは山陽電鉄である。

明治40年に兵庫の町から須磨寺と寺の東の池の一帯にあった行楽地を結ぶために開業した電車は、兵庫電気軌道といい、兵電と略されていた。兵電は大正6年には明石まで路線を伸ばした。一方、明石から姫路までは神戸姫路電気鉄道が、大正12年に営業を開始した。この両社はともに、昭和2年に配電会社だった宇治川電気に吸収されて同社の電鉄部となり、宇治電と称された。この宇治電が昭和8年に本社から分離して、山陽電気鉄道となり現在に至っている。

山陽電鉄に次いで、長田を駅名に使ったのは神戸電鉄である。その前身・神戸有馬電気鉄道いわゆる神有電車が昭和3年11月に湊川・有馬間、翌月に有馬口・三田間の路線を完成して、長田駅を開業した。一方、昭和13年に鈴蘭台・三木間で開業したのが三木電気鉄道で両社は、昭和22年に合併して神有三木電気鉄道となり、昭和24年に神戸電気鉄道現在の名に改めた。太洋戦争後に当時の国鉄が駅を長田区内に新設した時、すでに二つの長田駅があつたために、こちらは「新長田」

田と命名されたのであろう。

ところで、長田は神戸で最も古い地名の一つで、『日本書紀』にその名が記されている。同所では、九州から浪速の津（大阪）に帰る途中、神功皇后の船が大阪湾の海上でぐるぐる回って進まなくなつたため、武庫の泊（西宮）に船を着けて占いをしたという。この時、三柱の神が現れて、それぞれ願う所に祀られれば、順風と安全な航海を皇后に約束した。事代主命が長田の国に、天照大神が広田の国に、稚日女神が活田の国に祀られることを望まれた。そこで皇后が祀つたのが、現在の長田神社と生田神社と西宮市の広田神社で、こうして皇后の船は無事浪花に帰着できたという。稻作が普及した弥生時代に河川の流域毎に農耕社会が形成され、勢力を競うようになった。そのような日本を中国の歴史書『漢書』や『魏志』は「分かれ百余国」と書いている。神戸でも山地から流れ出す河川毎に、そのようなクニができる。

このようなクニを統合して大和政権が国土統一を進め、7世紀後半には中央集権的な国造りを進めて、8世紀に初めて律令が完成された。律令制では全国は国、郡、里（郷）に分けられ、この辺りには摂津国八部郡長田里が置かれた。平地の少ない須磨にはあまり農耕社会が発展せず、長田里に含まれていた。須磨の西端須磨浦公園の一ノ谷に長田神社のお旅所の碑があつて、長田神社の祭礼では今もここまで神輿が巡行させられるのは、古代に須磨が長田に含まれていたころの名残なのである。

刈藻川が山間から平地に流れ出した所に発展してきた農耕社会の長田に対し、平安時代には海辺で漁撈をわざとする駒ヶ林の集落も成長し始めた。寿永3年（1184）2月7日の源平合戦で東の生田の森を守っていた平家の副将・平重衝が負け戦の末に西方に敗走する。三宮から須磨方面への彼の騎行を『平家物語』は、「湊河、刈藻川をも打ち渡り、蓮の池をば馬手（右手）を見て駒の林を弓手（左手）になし板宿・須

「ヘリーズム文化を語る」(仮)

12月14日(日)

14:00

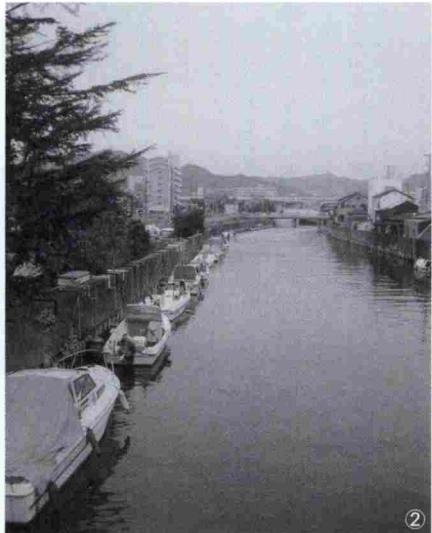
会場…兵庫県立美術館ミュージアムホール

参加料…無料(展覧会のチケットを提示)

募集人数…250名

主催…兵庫県立美術館

お問い合わせ…078-262-0901



①



③

① 長田神社
② 荘藻川
③ 腕塚

磨をも打ち過ぎて西を指いてぞ落ち給ふ」と描いている。旧湊川つまり新開地本通から莊藻川つまり新湊川を渡って中央幹線道路を西に進むと、右手に奈良時代からの溜め池・蓮池、今の市民ランドや蓮池小学校がある。左手に駒ヶ林を眺め、板宿の南の太田町の交差点を過ぎ須磨方面に走ったわけで、現在のランドマークや地名にびったり当てはまる。山陽鉄道須磨寺駅北側には源氏の追手による「平重衡捕らわれの跡」の碑もある。

JR新長田駅は、実はこの駒ヶ林の旧村域にある。古代に山手の長田と浜辺の駒ヶ林の二集落ができるいたこの地域に、中世には庄藻川下流の真野池(川尻近くの池だったので尻池とも呼ぶ)の岸に東西の尻池村ができ、川の西方には西代村が成立した。蓮池の岸の農村・池田村や駒ヶ林の西の野田村も形成された。江戸時代の農村生活はこのような農村が基盤であった。

近代的な市町村制が確立された明治22年、このような村々が合流して一行制村を作った時、歴史のある大きな長田と駒ヶ林の両村が譲らず、新村名は両村から一字づつ採って「林田村」とされた。やがて同村は神戸市に合併し、明治以降は駒ヶ林の地名は徐々にローカルなものと考えられるようになった。昭和6年に神戸市内に区制が実施された時、林田村域の区分を長田区としても大きな抵抗はなかった。こうして、長田区内の旧駒ヶ林に戦後駅が新設された時も、すんなり長田が採用された。駒ヶ林は歴史的な地名だと考へてゐる私としては、地下鉄海岸線に駒ヶ林の名が復活したことを中心喜んでいるわけである。



たなべ　まこと
1947年、神戸生まれ。兵庫高校・関西学院大学文学部卒業。現在、園田学園女子大学国際文化学部教授。地域研究で神戸市文化奨賞、神戸市活動功労賞を受賞。また、「ニュージーランド学会副会長や宝塚市教育委員をもつとめる。『神戸の伝説』・『神戸の100年』・『ニュージーランドの風土と生活』など著書、監修多数。

奇人・司馬江漢に私淑 オランダ趣味の「隠し落カン」 中右 瑛

北斎センセイのオランダ趣味を紹介しよう。ミニズが這い蹲つたような文字。センセイが自分の風景画の一隅に書き添えたオランダ文字なのだが、ハテ? 読者諸氏はナント? 解説されるであろうか。

だが、よく見るとオランダ文字ではなさそうである。なを詳細に見ると、"ほくさゐゑがくくだんう志がふち"と、平仮名で書されているではないか。オランダ文字に見せかけたセンセイの署名だったのである。

洒脱な発想の「隠し落カン」? センセイのオランダ趣味が知られる珍しい例なのである。

北斎センセイのオランダ趣味は、アノ奇人中の奇人で江戸随一の蘭癖家を自認する風来山人こと、平賀源内センセイからの系譜だ。

源内センセイは博識多能の文化人で、新しもの喰い。特にオランダ渡りの珍奇物にご執心。家財道具一切を売り払っても、好きなものを買い蒐めるオランダ渡りのゲテもの蒐集家。日本で初めて油絵を描いた?とも伝えられ、洋画の開拓先駆者という。科学にも万能で、エレキテル(電気)の発明?者もある。一方、悪評高し。酒色に溺れ、大言をなし、発狂して人を殺したとも。加えて極度の男色趣味などが、源内センセイの悪名を一層高めているようである。

その変り者の源内センセイに私淑したのが、コレまた奇人変人の司馬江漢大センセイだった。西洋カブレ

(北斎のサイン)



葛飾北斎画「くだんう志がふち」山ヒダ、人物に影が描かれている
(左上部にオランダ文字?が見える)

「ひとつ、我輩も挑戦してやろう!」

でも奇人ぶりでも、源内センセイにはヒケをとらないほどの強輩で、パリで大流行のメカネ絵に使った舶来銅版画をヒントに天明三年(1783)、日本で初めてメカネ絵に使う銅版画を創製したほどである。この江漢大センセイの銅版画を見て、感涙したのが北斎センセイ。今までの浮世絵にはみられなかつた、リアルでボリュームのある力強い広がりをみせる風景描写。遠近法、陰影法を駆使した立体画法に驚嘆した

センセイは木版画でもって、銅版画まがいの風景画を試作したのである。センセイは勝川派を破門され、以来、さまざまな流派に学んだ。狩野派や大和絵、漢画、ついには西洋画法に挑んだのだ。

光と陰、強烈なデフォルメによる造型、特異な遠近構図。額フチを書き加えたり、色彩を渋くしたりして洋画感覚を高めた。それが「ほくさあゑがく」オランダごのみの洋風画なのである。

この期、さまざまなこの種の風景画を多く発表。小判「近江八景」の袋には「北斎画・銅板」とある。北斎は木版画であるのに、わざわざ「銅板」と記し、銅

版画に見せかけている。負けすぎらいの北斎が江漢銅版画に挑戦したのである。

ときあたかも寛政―文化期（一七八七―一八一七）は、オランダ趣味ブーム。北斎センセイは三十代―四

十代の最も油の乗り切ったときだった。

余談だが、北斎センセイと江漢センセイとの共通点、それは、世にも稀有な奇人であったということだ。

画界にすばらしい業績を残した江漢だが、その奇行、変人ぶりは目に余るほどである。虚言癖の大家ともいわれ、人を騙した例は山ほどある。

年令をゴマかしたこと。死んでもいないのに「死亡通知」を出して人を驚かしたことなどである。

当時六十七歳だったのだが、九歳もサバを読んで「七十六翁」と署して、「死亡通知」を出した。江漢の年令が以後、ややこしく混乱するのである。

もう一つ、悪名を轟かした奇矯がある。

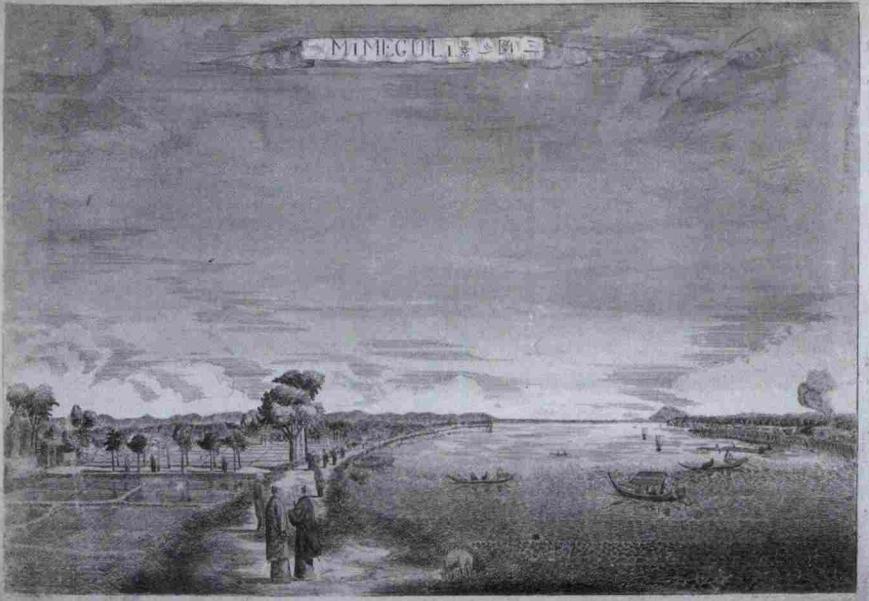
江漢、若かりし頃、高名な浮世絵師・鈴木春信の名をかりり、春信のニセ絵を描いた。いま春信には大量の美人画が残されているが、その中には江漢のニセモノが多数含まれている。

江漢センセイは、虚言癖を、洒落、單なるいたずらとして楽しんだのだった。北斎センセイに負けず劣らず奇人ぶりである。

江漢は文政元年（一八一八）十月二十一日、孤独のうちに死んだ。九歳もサバを読んだので八十一歳と伝えられたが、実際は七十二歳だった。

北斎センセイのオランダ趣味は、後年のアノ一世一代の傑作「富嶽三十六景」シリーズの風景画に大きいなる礎石となっているのである。

MINEGULI 景図二



司馬江漢画「三園之景」（銅版画）覗きメガネ絵 左右が逆に画かれている

■中右瑛（なかう・えい）

抽象画家。浮世絵・夢ニエッセイスト。一九三四年生まれ、神戸市在住。行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書多数

C M ソング

浅黄

あさぎ

斑

まだら

△作家▽

絵・犬童

いんどう

徹

とおる



B S ジャパンとテレビ大阪に「女と愛とミステリー」という二時間ドラマ枠がありまして、今年は小生の原作が二本、放映されました。ひとつは榎木孝明主演の「富士六湖殺人水脈」で、もうひとつは富田靖子主演の「死蛍」です。前者のほうには「警察部補の事件簿」と副タイトルがついてまして、この稿を書いている現在、シリーズ第二作のロケが、いよいよ終盤を迎えていた頃です。原作では「金沢・八丈殺人水脈」だったんですが、出目昌伸監督の希望で、テレビドラマでのタイトルは「八丈・金沢殺人水脈」と地名がひっくり返りました。ドラマ冒頭のシーンに八丈空港を飛び立つジェット機を配し、そこにタイトルをかぶせる、という単純な理由のようです。実に明快ですね。

こういったロケに、原作者も顔を出さねばならない、といった決まりはないんですが、小生はけっこうミーハーなところがありますので、しつかり横浜ロケにつきあつてきました。警察部補の上司

役は河原崎健三で、この間亡くなられた河原崎長一郎さんの弟さんです。長一郎の奥様で女優でもある伊藤栄子さんが、この夏だったか神戸に来られて、一緒に食事をする機会がありましたので、上げたかったのですが、一足違いでご挨拶できなかつたのが残念です。榎木さんは、震災復興関連のイベントで十一月末に森村誠一さんらと一緒に神戸に来られるとか、神戸での再会を楽しみにしています。

とまあ、なんだか C M みたいなことを長々書いてしまいましたが、ここでひとつクイズです。さて日本初のテレビドラマの放送は、いったいいつだったでしょう。答えは、昭和十五年です、と書けば、ええ、とたぶん目を丸くされるでしょう。でも誤植ではありません。この話をすると、たいがいびっくりされるんですが、本当のことです。我が国でテレビ放送が始まったのが昭和二十八年のことですから、驚かれても無理はありません。

ちなみに、テレビドラマという言葉は日本で創られた言葉で、英語では「テレプレー」もしくは「TVムービー」というのが正しいのです。

それはともかく、日本最初のテレビドラマは伊藤鶴平原作の「夕餉前」で、昭和十五年五月に、東京の砧にあったNHK技術研究所の仮スタジオから実験放送のひとつとして放送され、千代田区内幸町の放送会館まで映像が無事に届いたそう。と、ここまで書いてきて、ふと小生は考えました。テレビといえばCM、CMといえばCMソング。さて、じゃあ、日本初のCMソングはなんだろう。というふうに、いつもながら脱線がはじまってしまったのです。ちなみに、このCMという言葉、通常はコマーシャル・メッセージの略なんですよ。

百科事典を引けば、たちどころに我が国のCMソング第一号は、民間ラジオ放送が始まった昭和二十六年に、三木鶴郎作詞作曲の「僕はアマチュアカメラマン」だったと分かります。小西六写真工業ですね。テレビだと「ワワワ、ワがみつ」のミツワ石けんや「明るいナショナル」の松下電器あたりでしょう。でも、もひとつ小生には納得ができない。というのも、たとえば幼少のみぎりでやってきた、パン屋さん。あれだって、立派なCMソングで、もつと昔からあったような気がする。それに、なにかの本で読んだ記憶があるんだけど、「ロバのパン屋がトンコロリ」なん



■浅黄斑（あさぎ まだら）推理作家。一九四六年神戸市生まれ。西神二丁目タウンに在住。一九九二年小説推理新人賞。一九九五年日本文芸家クラブ大賞を受賞。日本文芸家協会、日本推理作家協会などに所属。日本文芸家クラブ関西支部長。「さきよも風さえ吹きすぎる『ちゃんとがれ西鶴』『走る死体』『神戸・真夏の雪祭り殺人事件』など著書多数。

ら、当然、いろんなCMソングがあつたはずだ。と、こうなるといけません。どんどん調べなければ気がすまないのが、小生の悪癖です。正直言つて、今回はとても手こずりました。こういった日本初物を調べるには、石井研堂という人の「明治事物起源」という文献が役立つのですが、さすがにどこをどう探しても、CMソングというのは見つかりません。分かったことといえば、明治十八年に東京の広告広目屋が市中音楽隊というのを結成したが、注文は絶対だつたらしい。これきっと、チンドン屋ですね。ところが日清戦争があって、ヤレ出征、ヤレ祝勝と市中音楽隊が、にわかに脚光を浴びたということくらい。でもあきらめないのが小生なのです。

二日ほども、あれこれ資料をあさつた甲斐あつて、ついに判明いたしました。発表いたします。

明治三十一年、広告主はライオン歯磨。曲は「元寇」という歌そのままの替え歌で、「数百余種にござる。従来出来の品。各人ここに見る。効驗みえんまずいこと」といったような歌詞を、社長を陣頭に六人編成の音楽隊で、全国ツアーオーをおこなつたそうだ。

ちなみに、小生原作のテレビドラマは来年三月に放送予定です。

出石ネギ

絵・菅原 洸人

兵庫県にドーム球場があるのを存じだらうか。多目的ではあるが、開閉式の立派なドームである。観覧席へ行くためのエレベーターも設置されている。神鍋山のふもと、日高町にある但馬ドーム球場。

常連さんに、もう何十年もアマチュア野球の審判をしている人がある。円山さん、74歳。

声が凄い。浪花節と審判とで鍛えた恐持て声である。背は低いが、歩く姿は後ろから支えがいるほどだ。金離れもよくて、要するに親分肌。

この人がそのドーム球場へ行くというのを聞いた。わたしと家内も丁度その日に但馬の出石へ行く用事があったので、陣中見舞いをしないわけにはゆかない。

円山さん、今はもう県の組織の重鎮で、審判に立つことはないのだが、大きな大会があると出掛けて行く。そこへ尋ねて行つたのだ。

バックネット裏の本部席に入つて行くと、やはりこの人、ど真ん中の席にドッカと座つて辺りを睥睨している。わたしと家内が入つてゆくと大層



喜んでくれて、辺りの役員さんに鼻高々である。

自分の知り合いが遠い所まで陣中見舞いに来てく
れたというのだが、この人にとっては、大きなステー
タスになるのだ。

わたしの店に入ってくる時の態度もまるでどこ
かの親分である。ゆっくりとドアを開けて入って
来て、そこで一旦胸を反らして立ち止まる。「俺
が来たぞ」という姿である。

この人の現役時代のエピソードが面白い。

「球審しとつて、きわどい球を『ボール!』ゆ
うたら、キャッチャーガが不満そうに俺の顔を振り
返りことがある。そんな時、俺はそいつの頭
つかんでケイツと前向かせたるんや」

プロ野球の審判に聞かせてやりたい話だ。

「Nと言ふチームの一一番バッター、こいつが生

意気な奴で、いつも自分のチームの者に偉そう
にゆうとる。その日の第一打席や。外角のきわど
い球を、ストライクアウト! ゆうて三振にしたん
や。そしたらそいつ、次のバッターとすぐ違う時、
『今日の審判まだ眠つとる』て言いよつた。いつ
つも偉そうにゆうとるもんやから照れ隠しや。俺、
聞こえとつたけど、その二番バッターに『今あい
つ何ゆうた?』て尋ねたら、『いいえ、別に』て
底いよる。俺、ベンチまで行って、『今何ゆうた
んや?』て聞いたけど答えよらへん。そやから、
『たしかに、審判眠つとるゆうたな。それ覚えと
くぞ』ゆうて試合進めた。次にそいつの打順が来

分かって来てストライク放りよらへん。監督が抗
議して来よったから、『あいつがバッターボック
スに入ったら、俺、眠となるんや。みんなストラ
イクに見えるんや。今日だけと違うぞ、これから
ずっとや』てゆうてやつた」

こんな調子で何十年、この町の野球界に君臨し
てきた人である。

ところがこの人、家ではさっぱりなのだ。

「うちの嘴、うるさいでえ。特に飯食てる時。

俺ここでもそそうやけど、そこら中に、飯まき散ら
しながら食うんや。口いっぱいに詰め込んで食う
から、あふれてしまうんや。そしたら、嘴が見とつ
て、『ほら落ちた、そこ。また落ちた、ほれ』て、
そら一々うるさいで。自分、飯食わんと俺を監視
しとるんや」

奥さんにかかるとまるで子ども扱いである。と
ころが…。

「昔は絶対に嘴と買い物には行かなんだ。市場
なんかとんでもない。それがこのごろ嘴が強なつ
て、スーパーへついて行かされるんや。買い物を
持たせよる。なんぼでも持たせよる。なかでも、
ネギが袋から出とるのが俺にはかなん。そんな時
に限つて、向こうから知つた人が来よるんや。俺、
知らん顔して、その場へポイと捨てたるんや。嘴
があわてて拾とる」

いたとき、どんな球でもみんなストライクゆうて三
振にしてやつた。その次には相手のピッチャーも

いすし・あかる 43年兵庫県生まれ。「風媒花」「火曜日」同人。兵庫県
現代詩協会会員。詩集「コーヒーカップの耳」(編集工房ノア刊)にて、
2002年度第31回ブルーメル賞文学部門受賞。

神戸はしけの女

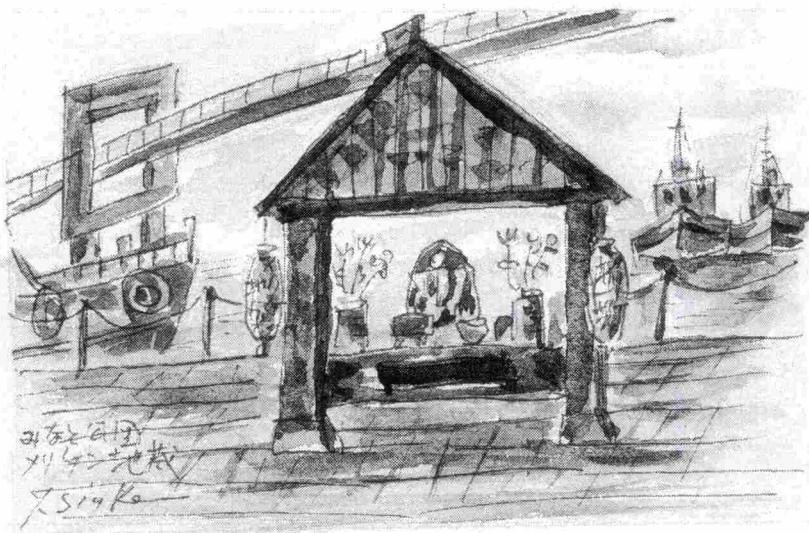
絵・新家保夫

花火

海の事故は当然のように人の命を奪つて行つた。はしけは特に海の上の居住の地であつたせいか、子供達の事故も多く発生。又港で働く労働者の中にも殉職する者も多くいた。

昭和五十年の頃、これらの事故を憂つた人がいる。港湾荷役に従事していた小野米吉という人で、小野は「いかり地蔵」と称して今的新しいウォーターフロントゾーンに祀り所を作つたのである。海の人気者であった小野米吉も、昭和五十七年五月に没している。

そして年月がたち、昭和六十二年五月、神戸を考える会の呼びかけと、市民各位の熱意により、それまで廃材を利用して作られた質素な祠から、現在の様な総チク材の祠が建立され、「いかり地蔵」から「メリケン地蔵尊」と改名された。メリケン地蔵尊と名づけられたお地蔵さんの祠には、平成三年末、鯉川筋での共同



溝事中に中突堤基部から出土した花隈城の歴史にまつわると見られる五輪塔が安置され、平成七年冬には漂着した観音像も安置された。

平成七年一月、神戸をおそった兵庫県南部地震により祠周辺の岸壁も全壊、その復旧工事のため祠も一時、三十メートル北の歩道橋脇に仮移転したが、岸壁の復旧完成とともに、平成九年十月、元の位置に復帰したのだった。平成十年十月には長く待ち望まれていた祠の電灯線の引込みも実現し、常夜灯が、お地蔵さんを照らすようになり、道を行き交う人も立ち止まり、手を合せる姿も見られるようになった。今では恒例になっている八月下旬の日曜日に、メリケン地蔵盆供養祭や精霊流しなどが行われるが、この祠は、神戸の復興と新たな飛躍を願う人達の熱意に支えられて常に護持されている。

とみ達国産住宅の人達も地蔵盆に参加したり、時には花を持って地蔵様に日頃の無事を願ったりすることもあった。

とみの病気も現状のままであるが、元気だった頃のとみは、大丸などに買物に出かけた帰り道などに立ち寄り地蔵様の掃除もした。

とみの病気は一向に治る様子はなく、誰かの手を煩わさなくてはならない日常の中で、とみの住む国産住宅の不便さは、建築基準に合致しているとはいえ、高齢化した人達や身体の不自由などみにとって悩みの種でもある。一台でもエレベーターがあればという声が、住民の中にある事は事実で、管理人の西山さんにとって、「何度か行政に交渉したのですが」と、自分の老いも思うのか、淋しくいうのが印象的だった。

とみの住む国産住宅は、人の高齢化と建物の老朽化が目立つが、一方震災を経験した神戸は医療産業都市を宣言したり、道路の段差のない広い道などが整備され、湾岸を走る地下鉄道などが神戸の未来を約束する様に静かに変貌している。

「みなと」とは水の門を意味する言葉という。古くからみなとまちとして発展してきた神戸は、人・モノ・情報の交流拠点である。国内はもとより世界の港として歴史を刻んで来た。確かに震災の痛手は韓国や外国に港としての機能を奪われた部分はある。しかし神戸はいつか昔の様に外国船で賑わう日がかならず来るはずである。神戸人の肌に海の香りがしみついているからだ。

北野から

三宮

三宮から 居留地
居留地から 波止場

神戸は海

神戸は山

神の戸を開けると

そこは異国のオモチャ箱

サリーが踊る

ニーハオ 赤い中国服

ポンソワール

グーテンターグ

リンゴチョコレート

瓦せんべい

きんつば

神の戸を閉じよう

ジャズ

ワイン

酒

百万ドルの夜景

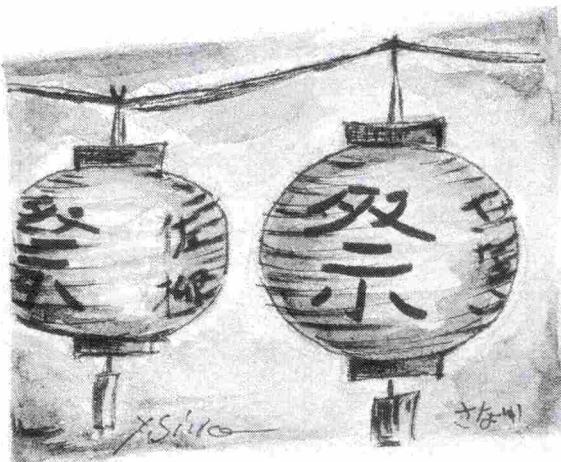
竹中

中西 勝

小磯 良平

鴨居 玲

神戸が涙を流す
うれしくて
うれしくて



ポートアイランド

六甲アイランド

兵庫埠頭

新港東埠頭

摩耶埠頭

はしけは消えた

港のバタヤンの帰り船の声はない

木造船も消えた

カモメが遊ぶ 小さな白い服が

泳ぐ 船先の景色もない

船の上の モチツキの音もない

ない

ない

ない

新 旧の港に

小さな歴史がある

平凡で

普通で

田舎者で

素朴で

働き者で

働き者で

とみが 生きた

とみが 生きる

大好きな 神戸で

平成十五年神戸の夏、順一はとみの車椅子を押しながら、とみが元気だった頃、花火を見るため場所取をした、とみの大好きな港の埠頭に立っていた。
「とみ、佐柳島に帰るか」
とみはいった。
「来年も、今年も、この花火を観たいんや。私は神戸が大好きやけん」
ドカン
ドカン

大きな花火が、二人の影をとらえながら、神戸の海を照らした。

完



※

※

あとがき

この物語は、はしけが盛んであった頃、四国の佐柳島から、若い主人を追つて、乳飲み児を抱き、神戸に来た女の一生を書かせていただいた物語です。主人公のとみは、本名大川とめといい、今も国産住宅に車椅子生活で住まわれている。平凡で仲の良い夫婦、三人の子供も、母の大きな胸に、小さな手を当てながら、安堵と母の優しい目を見あげながら育ったのです。

ゴザ二枚の船底での生活、しかし母の目は、母の愛は子供の目の中にしっかりと焼き付いているのです。

働く女性が増え、出産と同時に保育所に預けられる乳児。働く事はそれぞれの事情があり、それをすべて否定はしません。しかし、乳飲み児は母の目をみつめ、母の胸の暖かさを頬で指で一人でも多く感じてもらいたい。

この物語りを書きながら、とみさんの平凡だが母としての役割を見事に生きられたのではないかと思うのでした。一年間、はしけを見つめて過ごしました。

私と共に絵をお書き下さいました新家保夫先生ありがとうございました。そして一年間はしけ物語りをお読み下さいました読者の皆様ありがとうございました。

佐柳島の皆様ありがとうございました。

平成十五年十二月吉日
岡本真穂

岡本真穂（おかもと まほ）
詩人。関西文学同人、関西詩人協会会員、
神戸異分野交流会会长。著書「詩画集 花
野」「御影」。



愛読者
サロン



★8月号から連載されてい
る向井修二さんの男の気持。
1967年の復刻版シリ

ズなのですが、36年を経た
今も十二分に通用する樂し
い文章ですね、向井さんが

お元氣なら是非現代の目で
もって、もう一度書いてい
ただきたいと思います。

(須磨区・西岡肇美)

★各駅停車の神戸歴史ウォー
クが面白かったです。

(北区・中筋栄一)

★「MUSIC」の出でる
「オーパスワン」の演奏は
以前いすみホールで聴いて
とてもステキでした。今回
もぜひ参加します!

(灘区・福井美幸)

★本誌に感銘すること多し。
神戸の近況がよくわかつて
読みやすいです。

(加古川市・内井薰)

【読者の方からのお写真】

★この当時阪神電車のキャラ
チフレーズは「待たずに乗
れる阪神電車」で、一方阪
急電車の方は高架になりま
して「梅田まで特急30分」

でした。こんなビラが当時
の錢湯にも見られました。

また、この当時阪神電車の
終点は、この写真的後方、

今も国際会館の前あたりで、
大鉄傘の下の、大きい円形

のターミナルボックスでし
た。そこから電車は北へ進

み、省線の三ノ宮駅で、右
に直角右折して御影の方に

進んでいました。特急や急
行はなかつたと思います。

電話ボックスの中は右側
にハンドルがあつてそれを
回します。そして受話器は
左手にかかっています。

私の古い神戸でのクリス
マスの懐かしい記憶は北野
町の、人が殆ど行かなかっ

た一番高い上方の、今の

瀧道 クリスマス
哀愁／昭和7年12月

進んでいました。特急や急
行はなかつたと思います。
電話ボックスの中は右側
にハンドルがあつてそれを
回します。そして受話器は
左手にかかっています。

私の古い神戸でのクリス
マスの懐かしい記憶は北野
町の、人が殆ど行かなかっ

た一番高い上方の、今の

展望台」の近くの一軒家の
異人館のドアに、リースが
静かに賭けてあつたのをそつ
と目にしたことでした。何
一つ音のしない山の上のク
リスマスの夕暮れで、その
リースが今もはっきり目に
うかびます。

(加西市・白水誠三)



田辺聖子
佐藤眞臣
森實勉一
浅黄斑
新井満
石阪春生
今啓介
鶴殿ようこ
木原靖子
王柏林
大崎泰三
岡田敏穂
大本敏郎
緒方しげを
大木本美通
佐野連箕
澤田勝寛
島路樂園
柳晴夫
島京子
坂能朗

石井耕三
伊勢忠史郎
今津奈加子
市井貞雄
伊藤研一
伊庭文子
井田弘之
市野弘之
伊藤正巳
岩田勝巳
稻田勝巳
木村茂男
島達司
上羽田正巳
上村修二
鵜殿麻里絵
内田邦司
内田邦司
梅田英子
梅田英子
榎本重夫
榎本重夫

川原鉄子
大庭治節
岡田美代
小田井保義
鬼塚八郎
貝原俊民
柏木健夫
加藤隆久
榎本雅夫
角本稔
鐘播正也
嘉納毅六
嘉納邦子
川瀬上勉
加納勝男
林口利行
嘉木英一
木下章健
木本口
木本真
木本口
木本口

キヤウド・シネマズ・セレクション
上月倫子 鶴部昌吉 鶴巣四郎
山喜俊 雀部昌吉
佐藤純子 佐藤典久
佐藤悦枝 佐藤幸四郎
四方克明 鈴木幸子
島田誠 下村俊子
霜笛敏生 直原美那子
末次攝子 佐野達箕
瀬戸口仁三郎 妹尾美智子
曹英生 田中浩一朗
園田正史 田中祐史

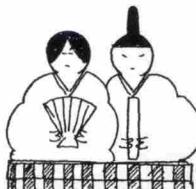
〈表紙のことば〉

今月の表紙をかざっている作品は1992年 花の旋律と題して神戸まつりのポスターに使用した原画です。まつりのポスターとした表現だけにすこし華やかさがあり、この作品だけで充分表紙になると思って単純にレイアウトしてみました。



2003年12月 石阪春生

KOBECCO祭り2004 ご案内



日時 2004年3月3日(水)
午後5時30分受付
午後6時開演
会場 神戸ポートピアホテル
会費 ¥12,000

